

## 高等学校英語教育研究会発足の経緯

平成元年～3年度会長

初代北海道高等学校英語教育研究会会長

会長当時・北海道札幌稲雲高等学校長

山口 茂

1年前に当時北海道室蘭清水丘高等学校長樋口隆士先生の発案で生まれた高等学校英語教育懇話会（高英懇）などの席上で、校長協会に所属する英語部会という組織では道内をはじめ他府県の英語に関する研究団体等との連携がうまくいかないのではないかと、かねがね疑問視されていた。グローバル化しつつあり国際化が叫ばれ、小中高大の連携、特に英語教育では中高大の連携が高まると共に、英語は小学校から教えるべきであると主張されている時代に「校長協会英語部会」では「道内をはじめ他府県の英語に関する研究団体等との連携」「中高大一貫教育の連携また全国の高等学校英語教育研究会・北海道英語教育研究会（一般社会人、幼小中高大からなる）並びに北海道中学校英語教育研究会等との連携など校長協会主催の英語部会では機能上また名称上スムーズに繋がらないというような理由から、北海道高等学校長協会の会長であるとともに、初代高英懇会長、北海道札幌北高等学校の樋口校長先生はじめ北海道旭川北高等学校校長で全英連の全国大会を旭川北高校を会場として開催された竹本校長先生、札幌東高等学校長の鍵谷先生など主な英語部会の役員の方々に相談し「校長協会英語部会」を「北海道高等学校英語教育研究会」とし、「英語部会」とはあくまでも表裏一体であることなどを附言し、部会役員の方々の先生方のご理解とご協力で、次のような研究会会則案を作成し、部会役員会・部会員の先生方に諮った。

第1章 総則（名称・目的・組織）

第2章 事業（英弁大会・中高連携の研究会・研究会講演会の開催研究調査研究成果の刊行その他目的に役立つ諸事業）

第3章 組織及び役員

第3章 支部（道央・道南・道北・道東～「英語教育研究・北海道」北海道高等学校英語教育研究会編 平成3年3月15日発行973～974ページに掲載）

第5章 機関（総会役員会事務局）

第6章 会計等

その後、全道の高校長協会総会で審議していただき満場一致で賛同を得、「北海道高等学校英語教育研究会」＝「高英研」が発足した次第である。その後、歴代の会長はじめ役員の方や英語関係者、道教委等の暖かいご理解・ご指導・ご協力の下に校長協会英語部会イコール「高英研」として今日に至っているのである。

<北海道高等学校英語教育研究会主催の諸事業>

\*英語教育研究会の開催

\*中高英語教育研究会の開催「英語教育研究・北海道」571～583ページに掲載

\*研究紀要の発刊「英語教育研究・北海道」平成3年3月15日発行～凡そ1000ページからなる昭和64年以前20年間の道内高等学校英語担当諸先生及び学校挙げての主な研究発表

\*講演会の開催～大杉正明先生（明治学院大学教授、NHKラジオ・TV講師）

小池生夫先生（慶應義塾大学教授～英語教員海外長期研修をジョージタウン大学で研修していた折6人全員が客員教授としてこられていた先生宅へ招待された。）

田辺洋二先生（早稲田大学教授～函館出身）

テーマ「**Hearing&Speaking**と国際化に向けた英語教育はいかにあるべきか」

\*支部ごとの研究会の開催「英語教育研究・北海道」973～974ページに掲載

\*支部ごとの英語弁論大会の開催

\*英語弁論決勝大会発表内容1位2位入賞者、短期留学の感想「英語教育研究・北海道」851～947ページに掲載

\*英弁大会の優勝者・準優勝者の海外短期派遣～短期留学の感想「英語教育研究・北海道」852～863ページに掲載

<北海道高等学校英語教育研究会設立協力者>

北海道高等学校長協会英語部会役員77名（理事＝英語担当の主な校長24名、幹事＝英語担当の教頭10名及び主な英語教諭43名）「英語教育研究・北海道」北海道高等学校英語教育研究会編 平成3年3月15日発行977～978ページに掲載

札幌稲雲高等学校協力者～北海道高等学校英語教育研究会・高等学校長協会英語部会事務局長 本田静夫教頭、鹿谷久幸事務長、英語科主任菅原一実教諭、福井利雄教諭、真鍋敏忠教諭外9名の英語科教員

「英語教育研究・北海道」平成3年3月15日発刊 発行所（有）専書販 印刷（株）フリオール ～凡そ1000ページからなる昭和64年以前20年間の道内高等学校英語担当諸先生及び学校挙げての主な研究成果掲載～の発刊に際しご理解とご協力をいただいた札幌稲雲高校の先生方には深く感謝する次第である。

さてここで高英研の触媒母体となった高英懇について留意しなければならない。一口で言うならば当時は高英研・英語部会・高英懇は切っても切れぬ関係つまり表裏一体という考えであった。従って本道での英語教育に携わる先生方には英語教育懇話会の設立の経緯を是非知っておいて欲しいのである。

<高等学校英語教育懇話会設立の経緯>

当時、国際化が叫ばれているのに道の中心地札幌市内に英語担当の高校長が皆無であった。

英語部会長は国語や社会担当の札幌市内の高校長であった。故に全道の研究集会では札幌市以外の地方の英語担当の高校長は研究主題・内容、講演者などについて研究会当日になって初めて知った状況であった。

室蘭清水丘高校長の樋口先生から昭和62年秋東京国立会館で全国高等学校長会議が開催された折、忘れもしない会館前庭で昼休みに「山口先生、国際化が叫ばれ、小学校教育から外国語教育をと主張されている時代に、札幌市内に英語担当の校長がいないのは極めて残念ではないか。なんとか我々が校長の時代に一人でも多く英語担当の校長を札幌にと……。道教委にお願いしようではないか」と申され、私もそれに賛成、早速帰道後、二人で道教委教職員課に上がり実情を訴えお願いした次第である。従って英語教育懇話会はあくまでも英語担当管理職のみの私的な団体なのである。以上のような理由から札幌市内に英語担当の校長または教頭をおいていただきたいと道教委に依頼して今日に至るのである。（私的には工藤管理部長・高橋教職員部長のお力添えで南幌から両部長の出身校倶知安高校へ、また当時の山本教育長とは長期英語教員の団長を仰せつかった時から懇意にしていたのでお願いしたこともあった。私的なことには応じていただけただろうかは定かではないが・・・?）

<北海道高等学校英語教育研究会ホームページ <http://www.koeiken.hokkaido-c.ed.jp> の紹介>

前会長 岡田義明校長先生（北海道札幌国際情報高等学校長）のご努力により全国乃至全世界に新しく公開された高英研の活動、特に研究発表内容及び我が国の英語教育で著名な一流の先生方の講演内容等が掲載されているので、是非ご高覧いただきたい。

新しい次代を担われる英語教育関係者にとって素晴らしい特筆すべき内容であると同時に益するところ大であると確信します。

凡そ20年前のことなので定かでない記憶、糅てて加えて加齢に伴う忘却・物忘れの度合いが多いため雑駁な記述になってしまい、お許し願います。

末筆になりましたが北海道英語教育の益々のご発展を祈ると共に英語教育に携わる諸先生のご健勝を祈念し擱筆します。